

## あとがきにかえて

私たちの会、西埼玉LD研究会は、約10年前に通常学級の担任と養護教諭の仲間が集まり、「生きにくさや学びにくさを抱えた子どもたちをどのように支援したらよいか」という課題についてともに考えていこう、という趣旨で発足しました。

阿部利彦先生が所沢市に入られて間もなく、所沢市のメンバーからすばらしい先生が来られたことを耳にしました。実際にお目にかかれたのは、YMCA主催のセミナーが川越市で開催された折、講師で来ていただいたときでした。お若くてとても穏やかな方というのが第一印象でした。

その後いろいろな場でご一緒になることが多く、先生はご多忙を極められる中、私たちの会との繋がりを大切にしてくださり、私たちを高めてくださいました。感謝です。

何しろ、私たちの会のメンバーときたら、本人たちが、様々な支援を必要としているようで、LD学会等に出席すると、「君たちの会は、研究会という言葉はいらねえね。LD会でいいよ」と言われるくらい目立つメンバーがそ

ろっています。会議をしていても、それぞれに関係のないことをしゃべりだしたり、人が話している途中で頭に浮かんだことをしゃべりだしたりするので、話し合いがなかなか進まないという悩み多き会です。

そんな私たちに、阿部先生から、通常の学級で発達障がいを持つ子どもたちにどのような支援をしたらいいのかを連載したので、力を貸してほしいというお話があったとき、ともに仕事ができる喜びが優先して、後先なく二つ返事しました。

もともと、メンバーは子どもが大好きで、子どもに寄り添う仲間たちです。日本LD学会や日本自閉症スペクトラム学会に入って学んだのも、私たちには誰にも負けない実践はあるけれど、それを裏付ける理論がなく、そのため人に理解してもらうことが難しいと感じていたからでした。というわけで、阿部先生のご提案に、それぞれが「任せてください」の心境だったと思います。

連載1年目は月ごとの学級指導へのヒント、2年目は教科指導での支援でした。今の私たちにとって、特別支援とは、特別の子どもに対する支援という視点ではなく、学級全員がわかり、楽しく過ごせる学級づくりととらえています。

毎月1回、夕食をともにしながらの学習会という名目で集いました。

阿部先生が「今日の課題は……でお願いします」と始めるわけですが、それからが大変。それぞれに取り組んできた実践を、我先にととりとめもなく話します。また、それぞれに得意とする分野もあります。阿部先生はその話に相槌を打ちながら聞き、メモを取っておられました。時には、私たちが教室で使っているグッズを持ち寄り、阿部先生はそれをカメラに収められます。それぞれしゃべることがなくなってくると、静かになり、ちようどいいお時間で……となるわけです。

そして翌月になると、そのとりとめのないおしゃべり実践話がきれいにまとめられて誌面になっています。阿部先生の文章を読みながら、私たちは改めて自分たちの実践を客観的に見直し、なるほどと納得するのです。本当に頭が下がりました。

この2年間、いろいろな意味でもよい勉強をさせていただいたことに心から感謝しています。私たちの実践してきたことが、1人でも多くの、現場で困っておられる先生方の参考になればと願っています。私たちはこれからも子どもたちに学びながら、試行錯誤を繰り返し、これでもダメ、これは……といろいろな挑戦を続けていくことでしょうか。

阿部先生、本当にありがとうございました。お疲れさまでした。これからも懲りずに、私たち西埼玉LD研究

会の面々とおつきあいください。そして、私たちを高めてください。

西埼玉LD研究会代表 小関 京子

## 阿部からひとこと

たくさんの方の現場の先生方が、そして子どもたちが笑顔でいられるようにと、西埼玉LD研究会のメンバーや助っ人の丸田美幸先生、綾田みどり先生に、学校が終わってから集まっていたいただいて、夜遅くまでみんなで侃々諤々アイデアを出し合っていてやってきた連載をまとめた本書、少しは皆さまのお役に立てたでしょうか？

私たちにとってのチャレンジだった2年間の連載中、読者の皆さまの励ましの声に何度も支えられました。本当にありがとうございました。

また、ほんの森出版の兼弘陽子さんには、あるときは寛容な編集者として、またあるときには理解ある読者として、温かく励まし支えていただきました。ここに心より感謝申し上げます。

阿部 利彦